

これぞマドロスの恋 : Das ist die Liebe der Matrosen

映画『狂乱のモンテカルロ : Bomben auf Monte-Carlo』より

作曲 : W.ハイマン、編曲 : 小林正明

映画『狂乱のモンテカルロ』 (独) 1931 年制作、日本での公開は 1934 (昭和9) 年

風刺の利いたロマンチックなミュージカル大作。

〔映画のあらすじ〕地中海に停泊中の仮想国ポンテネロの巡洋艦の艦長クラドックのもとに祖国から女王陛下がモンテカルロに外遊するのでそのお供をするようにとの電報が入る。モンテカルロに着いたクラドックはそこで厚化粧で大きなホクロの美女に出会う。その美女こそ変装したヨーラ女王のおしのびの姿であったがクラドックは彼女を女王だとは気付かず下心を秘めて彼女に近づく。クラドックは女王とともにカジノに出かけて国から預かっていた軍資金 10 万フランを使い果たし、逆にカジノの経営者に 10 万フランを持参しないとホテルごと砲撃すると脅す。翌朝、艦内で一夜を明かした女王は海軍の制服をまといクラドックの前に現れた。クラドックはあの美女がヨーラ女王だと知るや万事休すとばかりに海に飛び込んでハワイ行きの船に移り移って逃走を図る。女王の命令で巡洋艦もそれを追いかけていく。

① 葉巻逸雄による歌詞 (1934 年)

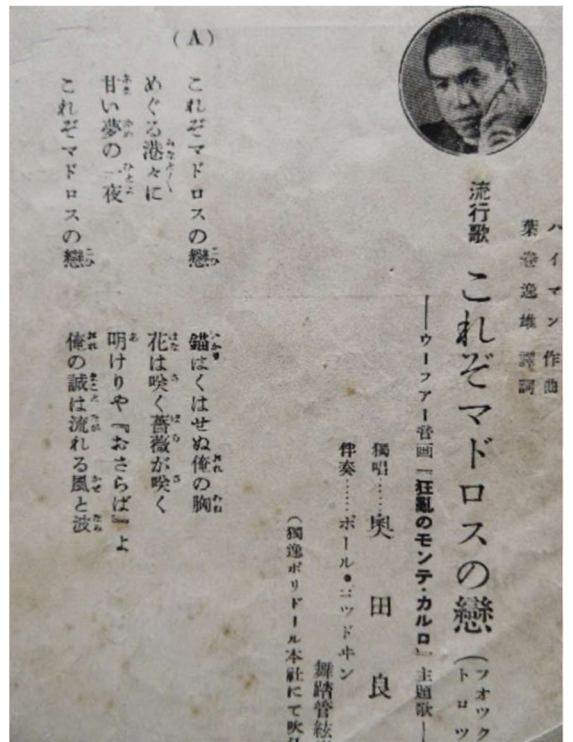
これぞマドロスの恋 錨はくはせぬ俺の胸 めぐる港々に 花は咲く薔薇は咲く

甘い夢の一夜 明けりゃ『おさらば』よ これぞマドロスの恋 俺の誠は流れる風と波

オレはマドロサホーイ お宿は涯しない波の上 今日 椰子の島影 あさオーロラ燃ゆる下

海は世界を巡る 世界は空めぐ オレはマドロサホーイ オレの恋は遙かな空と水

歌ったのは、ドイツでのオペラ修行から帰ったばかりの奥田良三。クラシック界の新星が流行歌をうたうという異色の組み合わせが大いに話題となって一世を風靡、後に奥田を国民的テノール歌手にする契機にもなった。



奥田良三の歌は、次のサイトで聴けます。

<https://www.youtube.com/watch?v=cdy9NwRWM3Y>

② われわれの歌詞

これぞマドロスの恋、錨はくわせぬ俺の胸 巡る港々に花は咲くバラが咲く
甘い夢の一夜、あしたは aufwiedersehen これぞマドロスの恋、涯しなく広がる男の夢
世界中を船で回る、それが船乗り俺の仕事 元気澆刺たぎる血潮、海にいのちを俺の仕事
恋人にも暫し別れ、波を枕に子守歌に
これぞマドロスの恋、燃える思いを止められはしない 海に咲くバラの花、港々で招くよ

すこしまニアックな考察

団員 A の疑問：「錨はくわせぬ」とはどういう意味だろうか。

船なんで錨に決まってる、しかし「くう」とは何ぞや。

大久保キャプテンの解釈「俺は船乗りだ、世界中を回るんだ、世界中に女がいる、だから（愛しいお前であっても）錨をくわせることはない、一カ所に留まることはないよ」

団員 B（船乗り）の気付き：

船を停めるテイハクには、「停泊＝岸壁に停泊」と「碇泊（錨泊）＝錨を打って停泊」がある。

翻訳にあたって、後者の「碇泊」と訳したところ、それを「ていはく」ではなく「いかりはく」と読んだの

ではないか。

つまり「いかりは、くわせぬ」ではなく「いかりはくは、せぬ」ではないか。

．．．．．

まだ結論には至っていません。

映画を見たい方

ユーチューブにフルヴァージョンがあります。

<https://www.youtube.com/watch?v=sO9obWJHsMo>

字幕はないですが、全編見ることができます。

ストーリーはハチャメチャです。面白いです。

船艦上の描写はよくできてます。モナコ公国モンテカルロの町並みは美しく、ダンスホール・カジノも出てきます。

女王さまから船員の未払いの給料と船を動かす石炭代 10 万フランを貰いました。日本の物価指数は映画制作当時の 1200 倍です。フランスも同じとすると、1 億 2000 万円。船長はこれをカジノで摩っちまいしました。
